

1..12..24 タイプライター

声と タイプと

1..30..40 タイプライター

QR + LF

前期〈ビジュアルコミュニケーション〉動的文字論 #1/4 20130620

文字は何を伝えるか

前田年昭 t-nae@inlabo.com

「子曰 書不盡言 言不盡意」——これは『周易繫辭傳』という中国の古典に書かれた言葉である。

書かれたもの（文字）は言葉（音声）をあますところなく表現できないし、言葉もまた意図（気持ち）をあますところなく表現できない——といった意味であろうか。

文字言語と音声言語とはどのような違いがあるのか、表語文字と表音文字とはどのようなちがいがあるのか。

まずはじめに、チョン・ジウン監督・脚本の映画『子猫をお願い』（二〇〇一）を見て、人と人とのコミュニケーションの成り立ちを考えてみよう。

原題：고양이를 부탁해 英題：Take care of my cat 制作年度：2001年 上映時間：112分
 脚本：チョン・ジェウン、監督：チョン・ジェウン ラインプロデューサー：オ・ジュヒョン
 撮影：チェ・ヨンファン 照明：パク・ジョンファン 編集：イ・ヒョンミ
 同時録音：イム・ドンソク Live 美術：キム・ジンチョル 音楽：M&F
 出演：ペ・ドゥナ——テヒ
 イ・ヨウォン——ヘジュ
 オク・ジョン——ジョン
 イ・ウンシル——ピリュ

あらすじ

ヘジュ、テヒ、ジョン、ピリュ、オンジョが、ソウルから電車で一時間ほどの近郊都市、仁川（インチョン）の女子商業高校を卒業して一年。五人は、高校時代を毎日ともに過ごした仲だ。しかし、時間とともに、お互いの距離が開き始めているのを感じていた。上昇志向の強いヘジュ（イ・ヨウォン）はソウルの高層インテリジェンス・ビルにある証券会社にお就職した。ルックスがよく、職場でも愛嬌を振りまく彼女は男性上司にも気に入られている。女の子が欲しいものはみんな手にしているように見えるが、ヘジュは満足しない。整形手術にも視力回復手術にもトライし、お金は服につき込んで、新たなチャンスを逃さない。

職場の上司には従順だが、高校時代の友人を前にすると優越感が自然と態度に出してしまうヘジュとなにかにつけぶつかりあうことが多くなってきたのは、五人のなかでも早くに両親を失い、バラック街で祖父・祖母と暮らすジョン（オク・ジョン）だ。彼女には定職がなく、屋根裏部屋でデザイン画を描きつづけているが、その才能を活かした仕事を見つけることはあるか、就職に四苦八苦している。学生時代は一番仲が良かったヘジュの言動が、いちいち癪に障るのだ。

こんな二人の間で五人の友情を守っていかうとするのは、夢見がちで「どこか違う広い世界に出て行きたい」と切望しているテヒ（ペ・ドゥナ）。自分の気持ちをストリートにぶつける本当の場所はどこなのか、探し続けている。彼女は家業の手伝いをしながら、小児マヒの青年詩人の家に通い、彼の口述する詩をタイプに打つというボランティアもしている。それなりに成功している自営業の家に生まれ育った彼女だが、父親のワンマンぶり、そして自分を理解できもしない無神経さにキレかけている。中国にルーツを持つ双子のピリュ（イ・ウンシル）とオンジョ（イ・ウン

46..50 複数同時通話（文字ではなく）

声と表情と

59..50 携帯

メールがバスの窓に

直接性	間接性
個別性	一般性
具体性	抽象性
特殊性	普遍性

さまざまな対比のなかで、8ページにあげた表現のさまざまはどの位置づけられるだろうか

ジユ)は、仁川のチャイナ。タウンに暮らし、アクセサリーの露店を出して生計を立てている。彼女たちは一九歳から二〇歳、つまり年齢の上で「未成年」から「大人」への橋を渡ろうとしている。ぶつかったりはしやぎあつたりしながら……。

ヘジュが二〇歳になる誕生日。それぞれにプレゼントを買ってパーティに集まるが、ジヨンにはお金がない。そこでジヨンが思いついたプレゼントはなんと、拾った子猫！ この風変わりなプレゼントをいつたんは受け取ったヘジュだが、ほどなくジヨンを呼び出して、子猫をつき返してしまう。

そんなある日。五人が集まって遊んでいる間に、ジヨンの住むバラック建の家がとうとう自然崩壊してしまう。祖父と祖母を一度に失った彼女は、天涯孤独の身になってしまった。それまで可愛がっていた子猫をテヒに預け、彼女は警察からの事情聴取を受けるが、捜査員に逆らい、それがもとで少年保護施設に収容されることになってしまう。

ジヨンにはこれから先のあてもなければ行き場所もない。誰が話しかけても完全黙秘を続けるジヨン。テヒはジヨンを施設に訪ねては対話し、その不安な心を受けとめようとする。

やがてジヨンが施設を出所する日がやってくる。子猫をピリョとオンジョに預けて、荷物をまとめたテヒは、施設にジヨンを迎えに行く。「どこに行くのかは、行きながら考えよう」とテヒはジヨンに笑いかける。二人は、仁川国際空港から飛行機に乗り、広くて未知の世界へと旅立っていく……。



02::01 (キャスト)

文字は入力→変換が見える (パソコン)

02::46 携帯メールの文字

文字は入力→変換が見える (パソコン)

04::47 タイプライターの文字

文字は固定 (タイプライター)

音声言語と文字言語のちがいと特徴

音声は聴覚による

一次元的にすすむ

微妙なニュアンススうい含みながら連続してなされる

→

同じ「場」に話し手と聴き手があり、伝達は直接的
 〓 個人と個人とのあいだの直接的な伝達には好都合

場面に依存する度合が大きい↑双方の共感、共通の知識と感情が背後にある

断片的であったり無言の了解 (以心伝心) がありうる

歴史的变化は連続的

文字は視覚による

二次元ないし三次元的にすすむ

区分を要求する

たとえば、紙の組版は「改行位置の発見」にある
 →

書く用具と対象〓恒久性を持つ

空間的距離 (横の連絡) から時間的距離 (縦の連絡) へ 〓 記録

音声言語を支える「場」が欠けている ↓ 言語外のものと言語化、論理性が求められる

歴史的变化はしばしば非連続的

1
.. 35
.. 45
メールが壁を流れていく

そのメール画面を見せて伝言する

1
.. 39
.. 10
タイプライター

自分の思いを

1
.. 49
.. 50
エンドロール

声、叫び、笑い声、泣き声、手ぶり、身ぶり、

手書き文字（ボールペン、鉛筆、毛筆、シャープペンシル、サインペン、スプレー）、

印刷文字、タイプライター、携帯、スマートフォン、パソコン、

モールス符号、手旗信号、のろし、